

馬場 佳久

路上生活者支援サークル・隅田の会 代表

### 窮民のエスノグラフィー—ホームレスという体験について

本稿では筆者が関与をつづけてきたフィールドをもとにホームレス問題を考察する。筆者は路上生活者の支援を目的に発足した、支援サークル「隅田の会」のなかで、この問題に関与してきた。そこで、アウトリーチ活動、生活支援などを行ってきた。そこで直接、肌を感じ目にして耳にして肌を感じた事柄がある。本稿では、ホームレスという症状について徴候論的読解を行なう。社会・政治・経済・文化的コンテキストにおける主要因と、無数の個人的要因との絡まりを描き出すことを目指している。ホームレスにならざるを得ないポリティクスを浮かび上がらせ、ホームレスという症状からの回復の難しさをここに示し、個々に合わせたケースマネジメントの必要性を強調した。「今・ここ」にある先輩たちの症状への介入の仕方を幾つか提示している。